

令和２年度 第４回 碧南市地域自立支援協議会 会議録

1 日時

令和３年２月２６日（火）午後１時３０分から午後２時３５分まで

2 場所

へきなん福祉センターあいくる 会議室１・２・３

3 出席者

(1) 委員等 ２０名

碧南市社会福祉協議会 山田 正教（委員長）

碧南市手をつなぐ育成会 牧野 昭彦（職務代理）

日本福祉大学教授 青木 聖久

碧南市身体障害者福祉協会 鈴木 たか子

碧南市民生委員児童委員協議会 三田 恒夫

NPO法人ハートフルあおみ（あおみＪセンター所長） 水野 啓章

愛知県刈谷児童相談センター 畠山 節史

愛知県立安城特別支援学校 安藤 嘉朗

愛知県立ひいらぎ特別支援学校 鋤田 素羽

碧南市小中学校校長会 鈴木 裕

親子の会「カラフル」 鈴木 由記

身体に障害のある子の親子の会「すまいる」 永井 美幸

ほっとまんまピアサポーター 杉浦 有美

碧南市農業委員会 藤浦 利吉

刈谷病院 水野 美香

ふれあい工房アルゴ及びWHJ相談支援センターメビア 雲出 佑

就労センターオアシス碧南 河野 大輔

碧南ふれあい作業所 竹内 涼

りはくる 小幡 一美

子どもと福祉の相談センター ひかりのかけ橋（圏域アドバイザー） 大南 友幸

(2) 事務局職員

ア 市職員

福祉こども部長 杉浦 秀司

福祉課長 杉浦 浩二

福祉課社会福祉係長 河原 睦

福祉課社会福祉係主査 沼田 京子
福祉課社会福祉係主事 榊原 陵子
福祉課社会福祉係主事 澤田 直也
福祉課社会福祉係主事 杉浦 久美子

イ 碧南市社会福祉協議会職員

地域福祉課長 鈴木 利男
地域福祉課地域福祉係主査 古川 裕隆
地域福祉課地域福祉係主査 小島 誠司
地域福祉課地域福祉係主事 天野 好美
地域福祉課地域福祉係主事 久村 明弘
地域福祉課地域福祉係主事 新美 直子

4 傍聴者

0人

5 議題

- (1) 碧南市地域自立支援協議会各作業部会の実績報告について
- (2) 次期へきなん障害者ハーモニープランの計画案について

6 議事の要旨

- (1) あいさつ（山田会長）
- (2) 議題

ア 碧南市地域自立支援協議会各作業部会の実績報告について
事務局が会議資料に基づき説明し、その後審議した。

<主な意見・質疑>

意見・質疑等なし

イ 次期へきなん障害者ハーモニープランの計画案について
事務局が会議資料に基づき説明し、その後審議した。

<主な意見・質疑>

A委員：概要版については、音声コードを作成したものを50部印刷し、必要な方にお渡しするということだが、対象となる方に案内等をする予定は。

事務局：対象者に対する個別のご案内は想定していない。委員の方々と、ご家族や支援者の方などを通じてお声がけいただける機会があれば、情報提供いただけるとありがたい。

(3) その他

事務局：次第に記載していますが、来年度は、第1回を6月25日（金）、第2回を10月22日（金）、第3回を令和4年3月11日（金）の各回ともへきなん福祉センターあいくる2階のデイルームにて、午前10時から行いたいと考えておりますので、よろしくお願いします。

7 まとめ

(1) 圏域アドバイザーまとめ（西三河南部西圏域アドバイザー 大南友幸氏）

今回碧南市の自立支援協議会に参加し、各部会の取り組み等の報告を伺った。私は他の市町にも参加しているが、やはりコロナ禍の影響で各会議とも予定どおり開催できず、書面開催となった会議も多い。そのため、顔を合わせて深く議論をすることが困難であったことが今年度の状況であったと思う。こういう中でも地域生活支援拠点ワーキンググループや医療ケア児者検討会に参加させていただいたが、今必要なものについてポイントを絞りながら進めているということを実感した。障害福祉計画も今年度中に策定ということで各市町において取り組んでおり、各市とも順調に進んでいるので良かったと感じている。コロナ禍に負けずに障害福祉に携わる仲間同士協力し合っていこうとエールの気持ちを込めて、まとめいたします。ありがとうございました。

(2) 学識経験者（日本福祉大学 青木聖久 教授）

1点目として、今日の各部会の報告の中で地域住民への理解の促進についての話や、コロナ禍だからこそそのIT化の必要性という話等があった。コロナは私たちをととても苦しめているものだが、出口がなかなか見えない閉塞感や未来を感じられない状況は、障害のある方がずっと抱えている気持ちだろうと思う。そういう意味では、多くの人が自らの体験をもって当事者の方の気持ちを知る機会になった。これが理解促進につながるのかもしれない。一方、IT化でいえば、これまではお金や時間がないと研修になかなか行けなかったが、今はオンラインで研修を行えるようになった。コロナによる損失も確かにあるが、損失だけではなく得られたものもあると思っている。

以前、私が阪神淡路大震災から学ぼうということで現地の社会福祉協議会に出向いた際に、その担当者に「震災で失ったものは大きいと思いますが、何か得たものはありますか」と質問したところ、「物資をもらいに行くとき、皆さんが我先にではなく高齢者の方や障害者の方に譲っていました。それを見て感動し、人というのは優しいということを再認識できた。もし震災がなければ気付かなかったかもしれない。」と答えになった。だから、私たちもいろいろな体験を通して新たな視点を得ることができ、

また、再発見もできると思う。

2点目として、就労についてだが、先ほど就労支援部会からも報告があったが、コロナ禍で多くの人々が失業する、ましてや障害のある方は就労の機会を得にくい状況ではあるが、企業側の需要と使命について振り返ってみたいと思う。障害者短時間トライアル雇用など、企業側へ助成金が出る制度があり、このような直接的なメリットもあるが、社会的役割を果たし地域に求められる企業となることや、寿命が伸びている現在においては定年退職後の人生も長くなっているため、企業が従業員に、働いている間にいろいろな体験をしてもらい、その後の人生に良い影響を与えることなど、企業が求めていることに対しどのように働きかけることができるか、いろいろなことを知っておき、総合的に考えることが大事だと思う。

3点目として、支援対象者と支援者の関係性についてだが、先ほどの医療的ケア児者検討会の報告の中で話が出ていたが、各支援者の役割や位置づけを、支援対象者だけではなく各支援者においても分かりやすくしておくことも大事なことである。当事者としての経験のある方が支援者になるピアサポーターの養成があるが、研修会の際には受講生の方だけを呼ぶわけではなく、身近な支援者とセットでの参加もしている。なぜかという、ピアサポーター以外の他の支援者や関係者が、ピアサポーターの活用の仕方を知らないとなかなか効果的な活用につながらないからだ。まずは医療的ケア児者がどのような方か理解することが大事だが、その次は身近な支援者がどのように社会資源を活用すると良いかを理解することが大事だと思う。

4点目として、知るということについてだが、今回、サポートシートについての報告があったが、とても意義があるものだと思う。ハーモニープランの概要版についても、文章が長すぎると読む気にならないという心理を考えた意義のあるものだと思う。例えば、東日本大震災で亡くなられた方が約1万9,000人であるのに対し、年間の自殺者が2万人強ということで、震災よりも自死で亡くなる方が圧倒的に多い。また、20歳代の死因のおよそ半分が自死である。そのような事実を知ると、ゲートキーパーという存在が重要であると感じられる。知るということ、知りやすくすることがとても重要である。

いずれにせよ今年度1年間皆さんと良い協議ができたと思う。来年度においても、やはり私たちは碧南市が好きだという気持ちを再認識していければと思う。

以上